

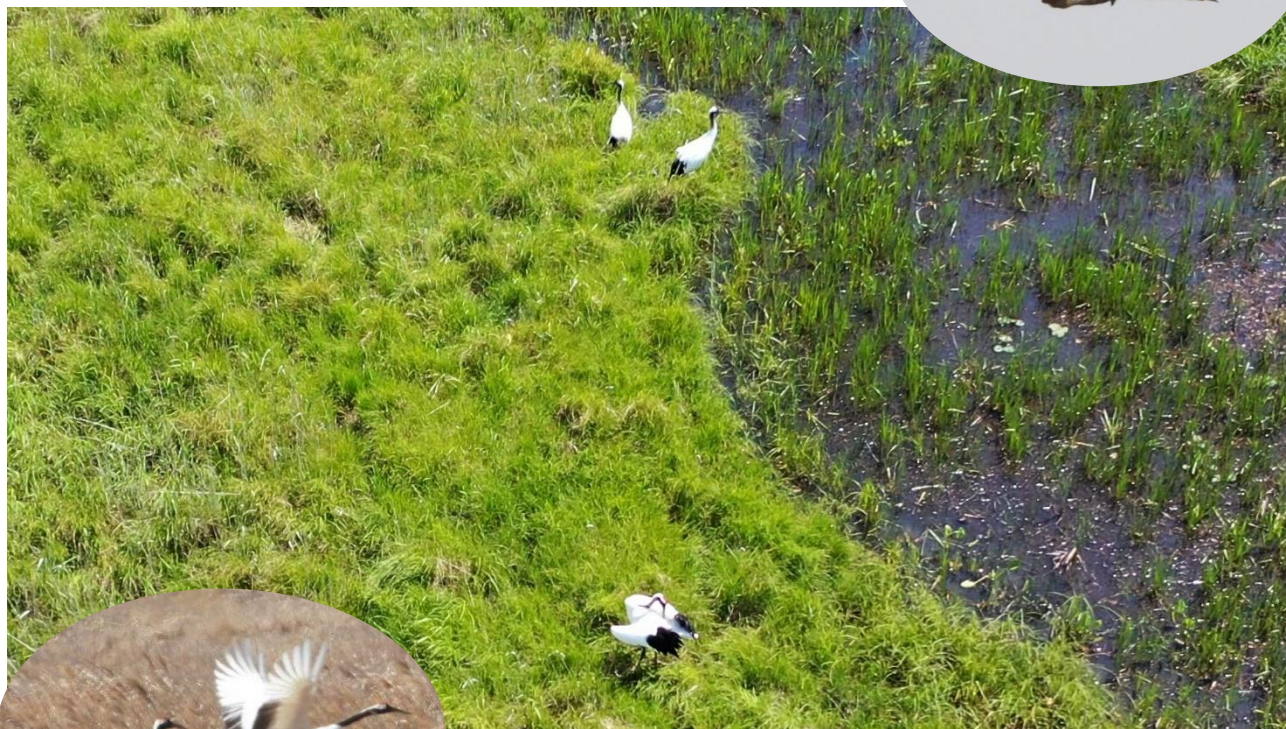
多くの生物が暮らす厚真町浜厚真の湿地を守るため、未来の子どもたちに継承するため
(仮称)苫東厚真風力発電事業の計画中止を求めます！

ラムサール条約登録湿地のウトナイ湖に隣接している厚真町浜厚真を含む勇払原野は、夏は冷涼で冬は雪が少なく、特異な気候が生き物たちを育んでいます。ここは太古以来の渡り鳥(ハクチョウやガン類など)のルートにもなっています。今年も浜厚真ではタンチョウが営巣し、チュウヒが飛んでいます。

この場所に計画されている風力発電の風車は、大型の風車(最大高さ120~155m—さっぽろテレビ塔と同等の高さ)で、この地に林立(6基~10基)することは、それを支える基盤と共に、湿地を含む繁殖地の喪失、渡りの阻害が考えられます。そして、20年から25年の稼働に過ぎない風車を建設することにより、失われる自然は二度と再生できません。また、この事業は準備書を用意している段階です。

「自然」は微妙なバランスの上に成り立ち、一度壊れてしまうと二度と戻りません。自然に近い地域に住む者は景観も含め、自然と共に生きています。自然は「心の豊かさ」を生み、それがあからこそその故郷です。

この豊かな自然を未来の子どもたちに残すために、私たちは「風力発電事業」の計画中止を求めます。



厚真町の湿地

